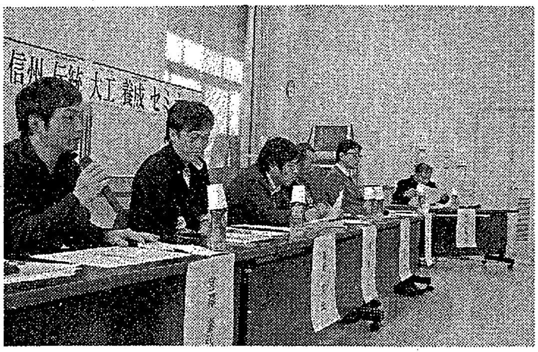
新時代の棟梁を目指して―

県建設労連　信州伝統大工養成セミナー開く

長野県建設労働組合連合会（松本市）は2月23日、長野県松本技術専門校で「信州伝統大工養成セミナー―伝統を未来につなぐ新時代の大工棟梁を目指して―」を開催。信州職人学校の修了生ら約40人が参加した。

同連合会は2009年、伝統的な建築技術の継承に向けた職業訓練の場として「信州職人学校・伝統大工コース」を創設。実務経験3年以上の若手を対象とするもので、学科と実技を週1回、半年間かけて学ぶ。



修了生らをまじえて行われたパネルディスカッション

修了者には長野県技能評価認定制度（県知事認定）にもとづく試験を実施。合格者に「信州伝統大工」（1級・2級）の称号を与え、安心して家づくりを任せられる存在としてアピールする。これまでに61人が学び、19人の「信州伝統大工」（1級10人・2級9人）を輩出してきた。今年も6月から「第3期伝統大工基礎コース」を開講する予定で、4月8日～26日に応募を受け付ける。

当日のセミナーは信州職人学校の目的や歩み、課題を紹介するとともに、若手構造設計者の山田憲明氏（山田憲明構造設計事務所代表）が天然木と伝統的な技術を生かした木造建築の可能性について講演した。

また修了生らをまじえたパネルディスカッションを行い、信州職人学校の意義や若者の入職促進を図るために必要なこと、大工が活躍できる場の拡大に向けた方策などについて意見交換した。

新建新聞　3月5日付